

3. 消防・防災について

問 16 「住宅用火災警報器」の設置について

あなたは、ご自宅に「住宅用火災警報器」（煙式・熱式）を設置していますか？

1. 設置している

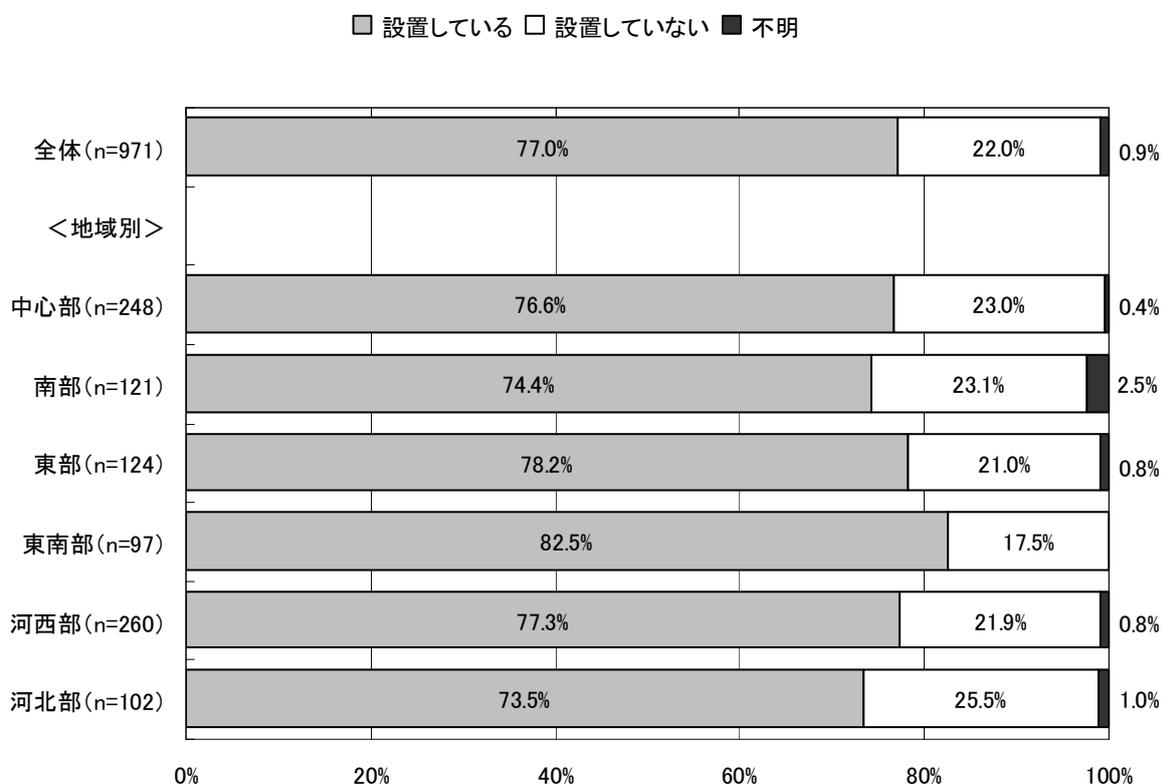
2. 設置していない

(共同住宅等で自動火災報知設備が設置されている場合は、設置していると回答してください。)

※ 「住宅用火災警報器」とは、火災が発生したときの煙や熱を自動的に感知して、警報音や音声などで火災を知らせてくれるものです。

「設置している」は77.0%「設置していない」は22.0%となっている。

地域別にみると、いずれの地域も設置率は70%を超え、東南部は82.5%と最も高くなっている。



問 16-1 「住宅用火災警報器」の設置義務についての認知度

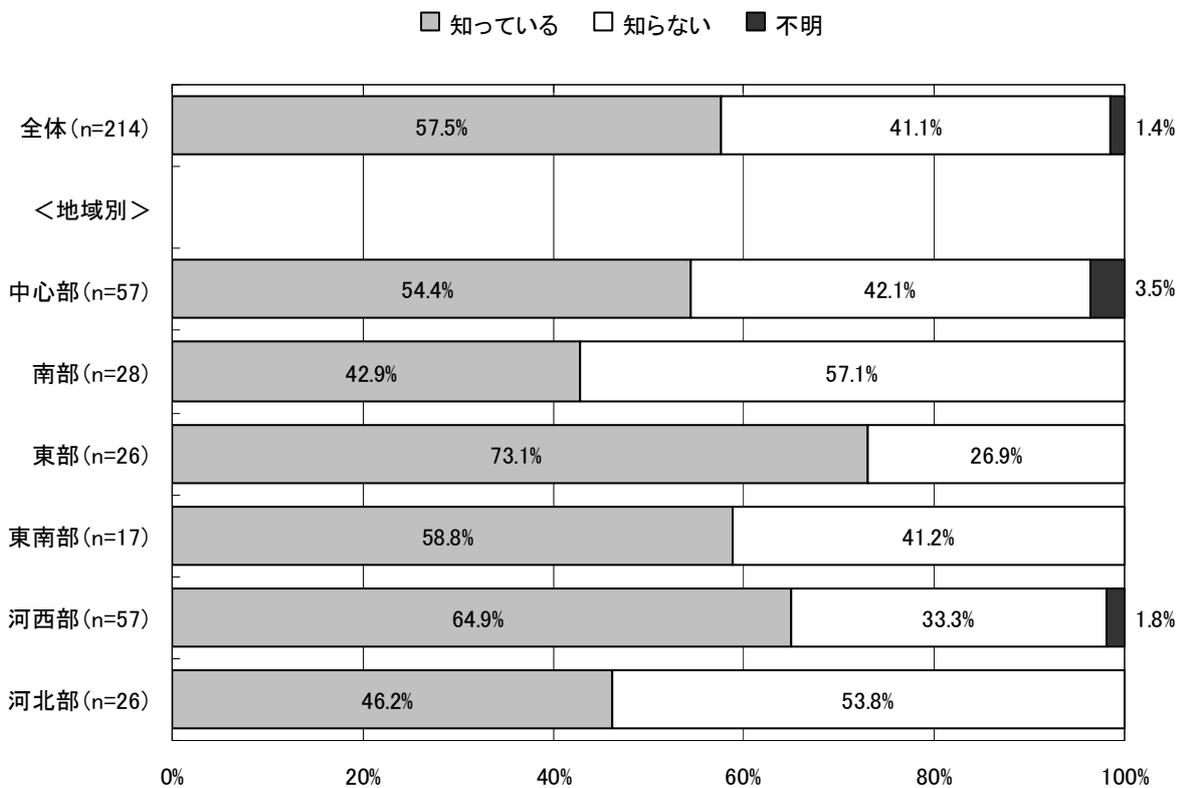
問 16 で「2. 設置していない」と回答された方のみお答えください。

和歌山市では、すべての住宅の寝室等に「住宅用火災警報器」の設置が義務づけられていることを知っていますか？

1. 知っている

2. 知らない

問 16 で「設置していない」と回答した 214 人のうち、認知率は 57.5%となっている。地域別にみると、東部が 73.1%と最も高く、次いで河西部が 64.9%となっている。南部(42.9%)と河北部(46.2%)は 40%台で他の地域より低くなっている。



問 17 「消火器」の設置について

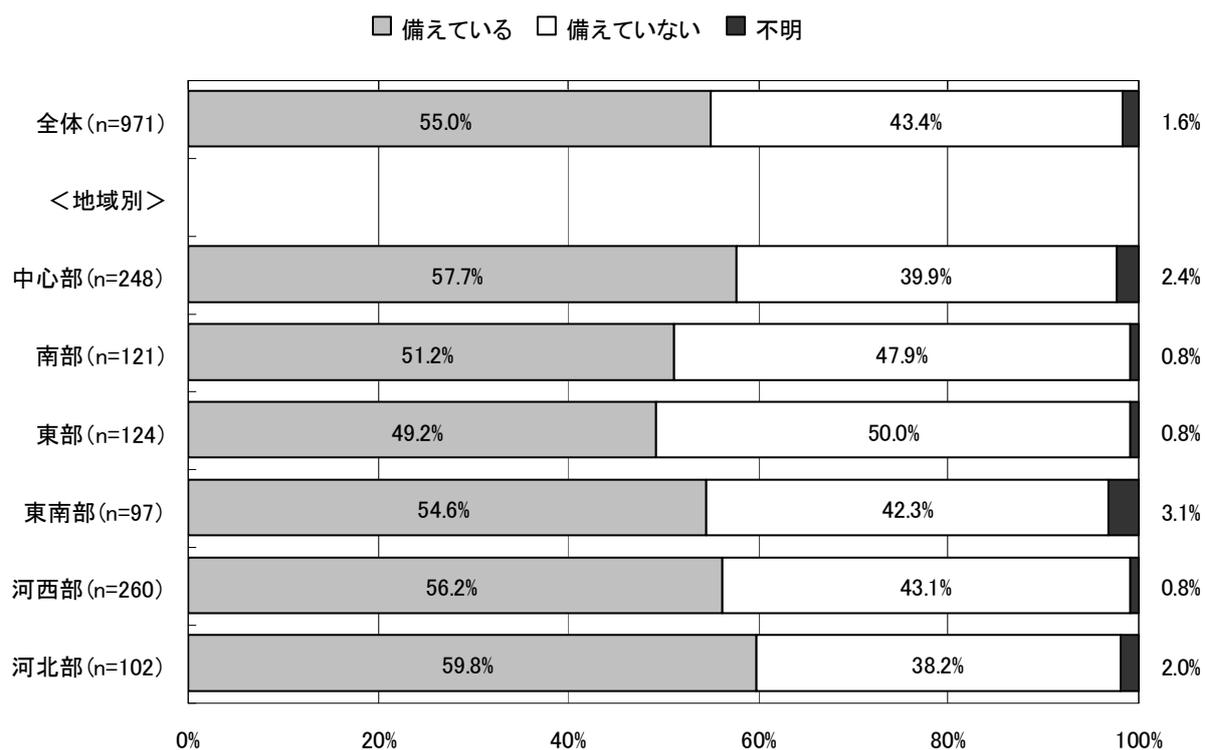
あなたは火災に備えてご自宅に「消火器」を備えていますか？

1. 備えている

2. 備えていない

「備えている」は55.0%、「備えていない」は43.4%となっている。

地域別にみると、「備えている」の割合は河北部が59.8%と最も高く、東部が49.2%と最も低くなっている。



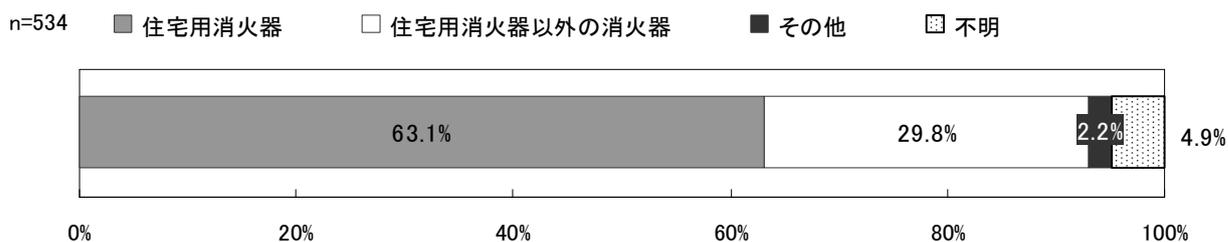
問 17-1 「消火器」の種類について

問 17 で「1. 備えている」と回答された方のみお答えください。

ご自宅に備えつけている「消火器」の種類は何ですか？

1. 住宅用消火器（特徴：赤色以外のものもあります。ゲージ付き。住宅用と表記されている）
2. 住宅用消火器以外の消火器（赤色のもの）
3. その他（ ）

問 17 で「備えている」と回答した 534 人のうち、「住宅用消火器」が 63.1%、「住宅用消火器以外の消火器」が 29.8%となっている。



その他：「スプレー式小型消火剤」、「携帯用消火器」など

問 18 「消火器」の廃棄について

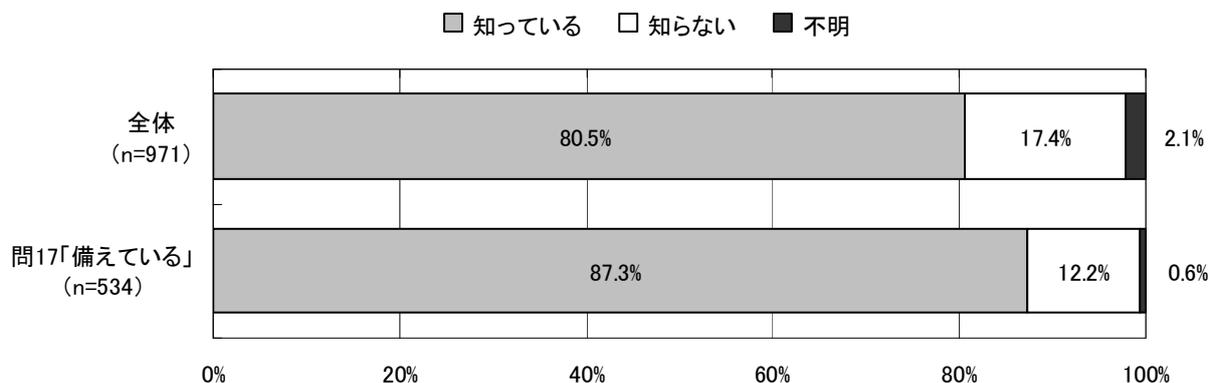
あなたは、消火器が一般のごみとして捨てられないことをご存知ですか？

1. 知っている
2. 知らない

※ 古くなった消火器を廃棄するときは、リサイクルシールを貼り、特定窓口（消火器販売店など）か指定取引場所へ持っていかなくてはなりません。

「知っている」は 80.5%、「知らない」は 17.4%となっている。

問 17 で「備えている」と回答した 534 人のうち、「知っている」は 87.3%と、全体の割合よりも 6.8 ポイント上回っている。



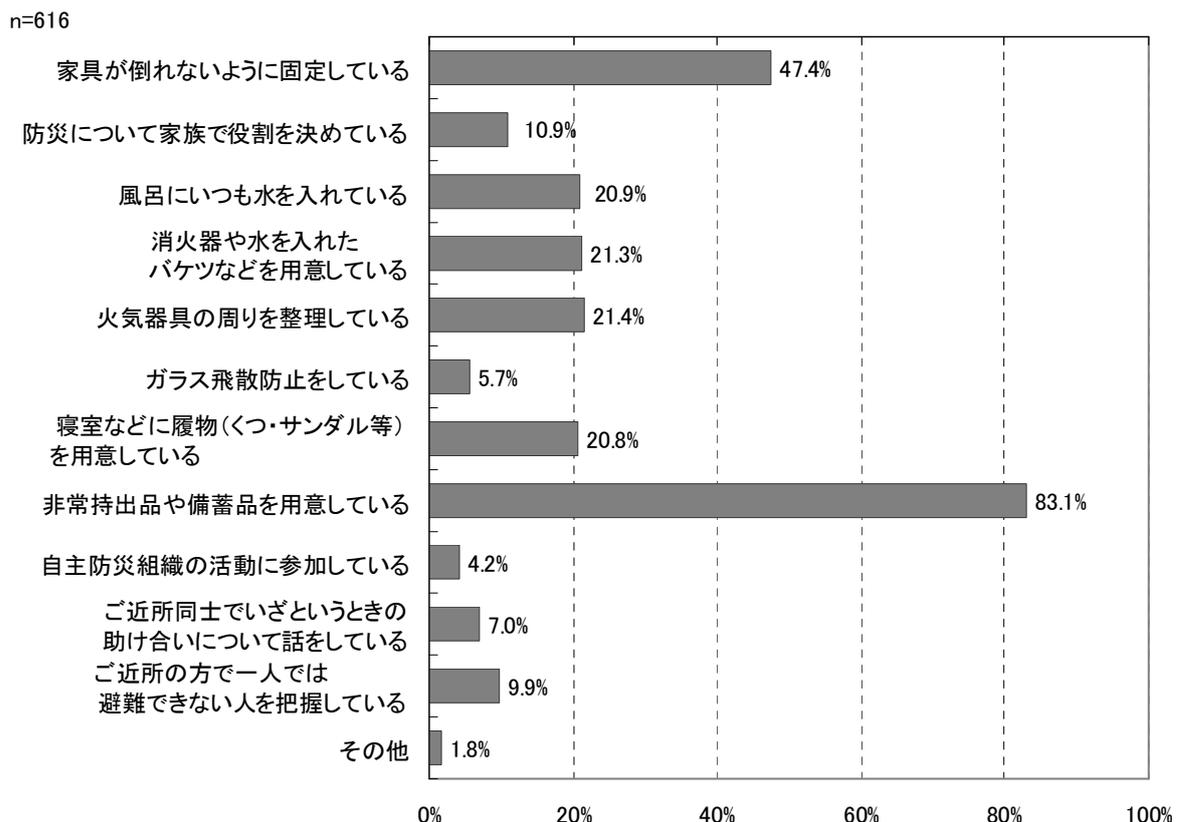
問 20-1 災害に備えていること

問 20 で「1. はい」と回答された方のみお答えください。

災害に備えてどのようなことをしていますか？該当するものをすべてお選びください。

1. 家具が倒れないように固定している
2. 防災について家族で役割を決めている
3. 風呂にいつも水を入れている
4. 消火器や水を入れたバケツなどを用意している
5. 火気器具の周りを整理している
6. ガラス飛散防止をしている
7. 寝室などに履物（くつ・サンダル等）を用意している
8. 非常持出品や備蓄品を用意している
9. 自主防災組織の活動に参加している
10. ご近所同士でいざというときの助け合いについて話をしている
11. ご近所の方で一人では避難できない人を把握している
12. その他（)

問 20 で「はい」と回答した 616 人について、「非常持出品や備蓄品を用意している」の割合が 83.1%と最も高く、次いで「家具が倒れないように固定している」（47.4%）となっている。「火気器具の周りを整理している」（21.4%）、「消火器や水を入れたバケツなどを用意している」（21.3%）、「風呂にいつも水を入れている」（20.9%）、「寝室などに履物（くつ・サンダル等）を用意している」（20.8%）はいずれも 20%台である。



その他：「耐震補強をしている」、「家具のないところで寝ている」、「家族で避難場所を話し合っている」など

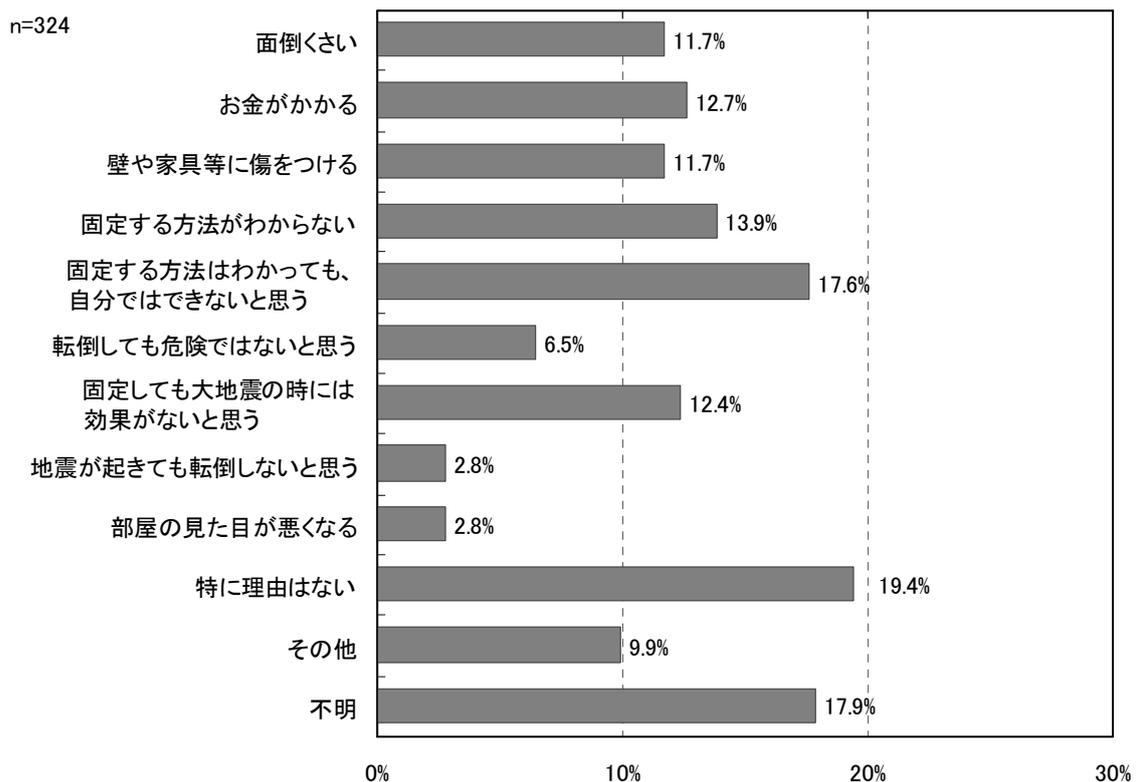
問 20-2 家具を固定していない理由

問 20-1 で「1. 家具が倒れないように固定している」を回答されていない方のみお答えください。家具を固定していない理由は何ですか？

該当するものをすべてお選びください。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. 面倒くさい | 2. お金がかかる |
| 3. 壁や家具等に傷をつける | 4. 固定する方法がわからない |
| 5. 固定する方法はわかっても、自分ではできないと思う | |
| 6. 転倒しても危険ではないと思う | 7. 固定しても大地震の時には効果がないと思う |
| 8. 地震が起きても転倒しないと思う | 9. 部屋の見た目が悪くなる |
| 10. 特に理由はない | 11. その他 () |

問 20-1 で「家具が倒れないように固定している」を選択しなかった 324 人について、「固定する方法はわかっても、自分ではできないと思う」の割合が 17.6%と最も高く、次いで「固定する方法がわからない」(13.9%)、「お金がかかる」(12.7%)、「固定しても大地震の時には効果がないと思う」(12.4%)の順となり、「特に理由はない」は 19.4%となっている。



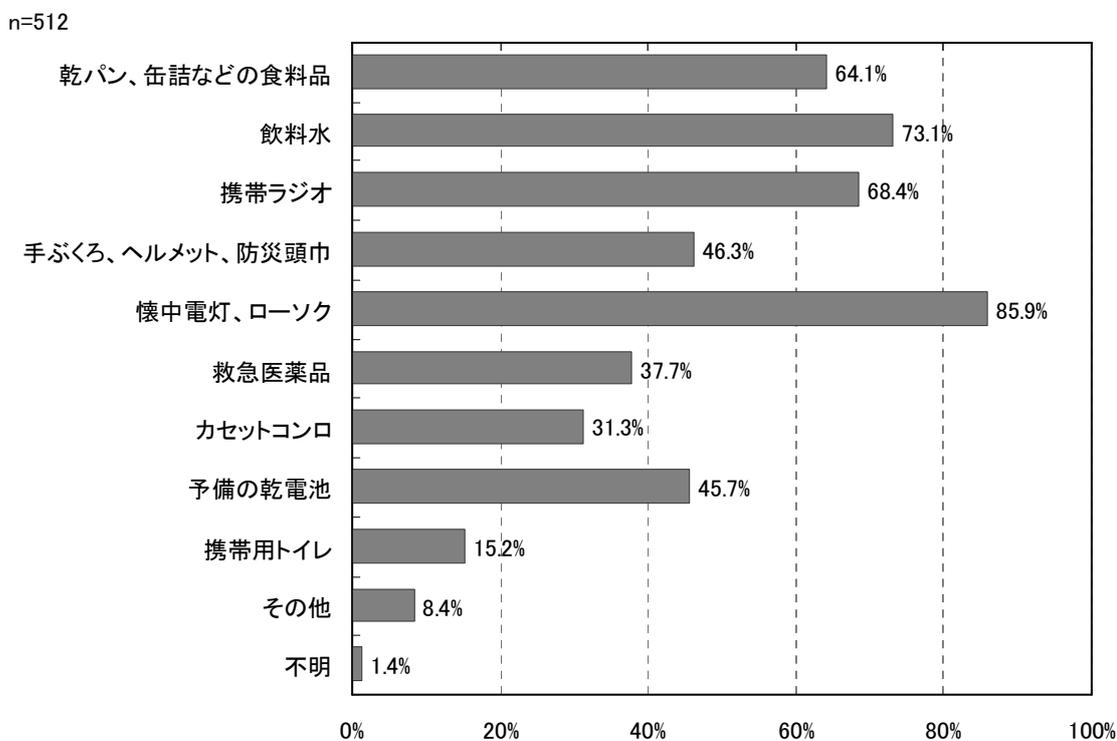
その他：「転倒するような家具はない」、「賃貸のため」、「近日中に固定をしようと思っている」など

問 20-3 用意している非常持出品や備蓄品

問 20-1 で「8. 非常持出品や備蓄品を用意している」と回答された方のみお答えください。
 あなたは、どのようなものを用意していますか？
 該当するものをすべてお選びください。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 乾パン、缶詰などの食料品 | 2. 飲料水 |
| 3. 携帯ラジオ | 4. 手ぶくろ、ヘルメット、防災頭巾 |
| 5. 懐中電灯、ローソク | 6. 救急医薬品 |
| 7. カセットコンロ | 8. 予備の乾電池 |
| 9. 携帯用トイレ | 10. その他 () |

問20-1で「非常持出品や備蓄品を用意している」と回答した512人について、「懐中電灯、ローソク」の割合が85.9%と最も高く、次いで「飲料水」（73.1%）、「携帯ラジオ」（68.4%）、「乾パン、缶詰などの食料品」（64.1%）の順となっている。



その他：「スリッパ」、「衣類・下着」、「ゴミ袋」、「笛」、「ロープ」、「アルミ保温シート」、「ラップ」、「おむつ」、「毛布」、「衛生用品」、「マッチ・ライター」など

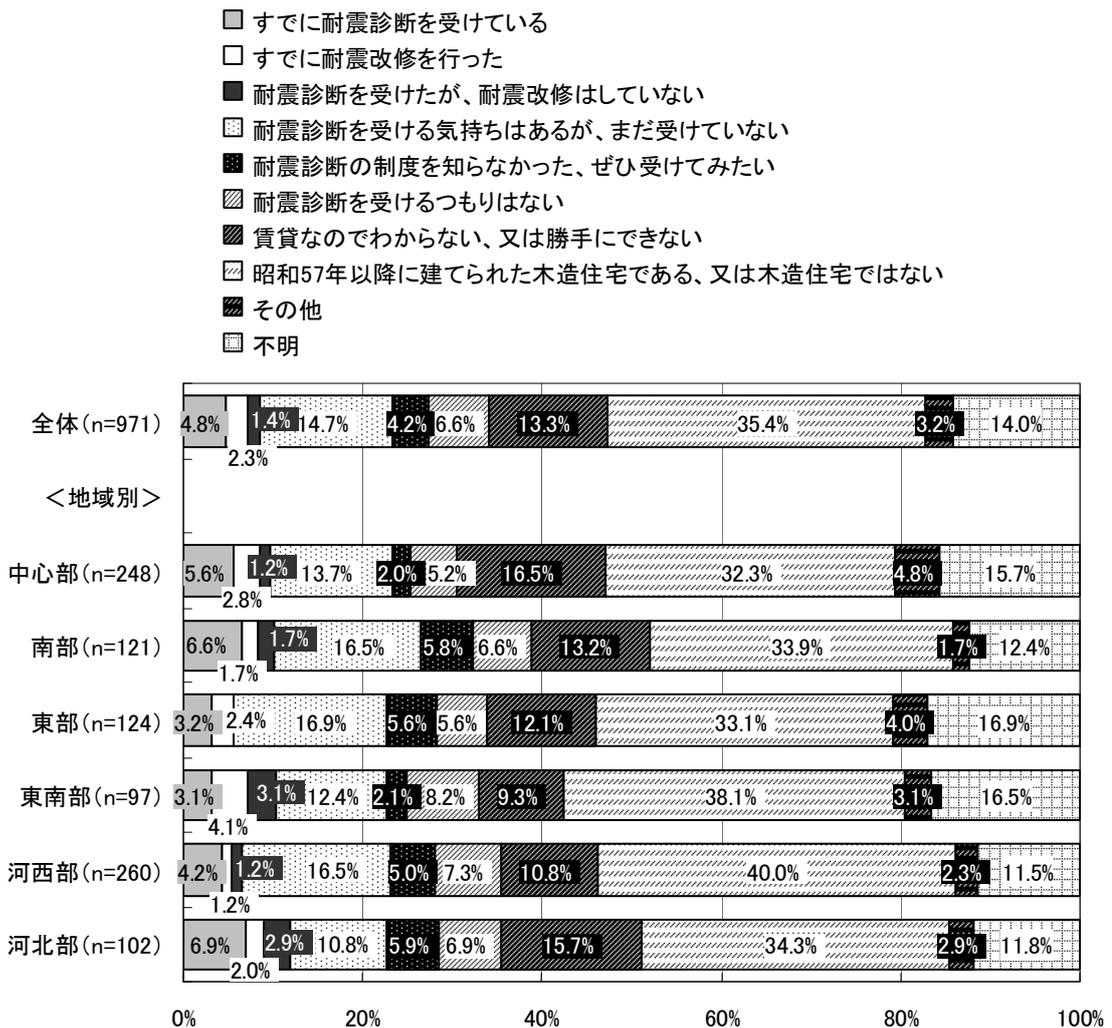
問 22 木造住宅耐震診断の受診状況

和歌山市では昭和 56 年以前に建てられた木造住宅に、無料で木造住宅耐震診断士を派遣し、耐震診断をする制度があります。お住まいの耐震診断についてお答えください。

1. すでに耐震診断を受けている
2. すでに耐震改修を行った
3. 耐震診断を受けたが、耐震改修はしていない
4. 耐震診断を受ける気持ちはあるが、まだ受けていない
5. 耐震診断の制度を知らなかった、ぜひ受けてみたい
6. 耐震診断を受けるつもりはない
7. 賃貸なのでわからない、又は勝手にできない
8. 昭和 57 年以降に建てられた木造住宅である、又は木造住宅ではない
9. その他 ()

「昭和 57 年以降に建てられた木造住宅である、又は木造住宅ではない」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「耐震診断を受ける気持ちはあるが、まだ受けていない」(14.7%)、「賃貸なのでわからない、又は勝手にできない」(13.3%)の順となっている。

地域別にみると、いずれの地域も「昭和 57 年以降に建てられた木造住宅である、又は木造住宅ではない」の割合が最も高くなっている。「耐震診断を受ける気持ちはあるが、まだ受けていない」の割合は、東部が 16.9%、「賃貸なのでわからない、又は勝手にできない」の割合は、中心部が 16.5%と他の地域よりやや高くなっている。



問 23 避難場所の認知度

あなたは、お住まいの地域の避難場所を知っていますか？

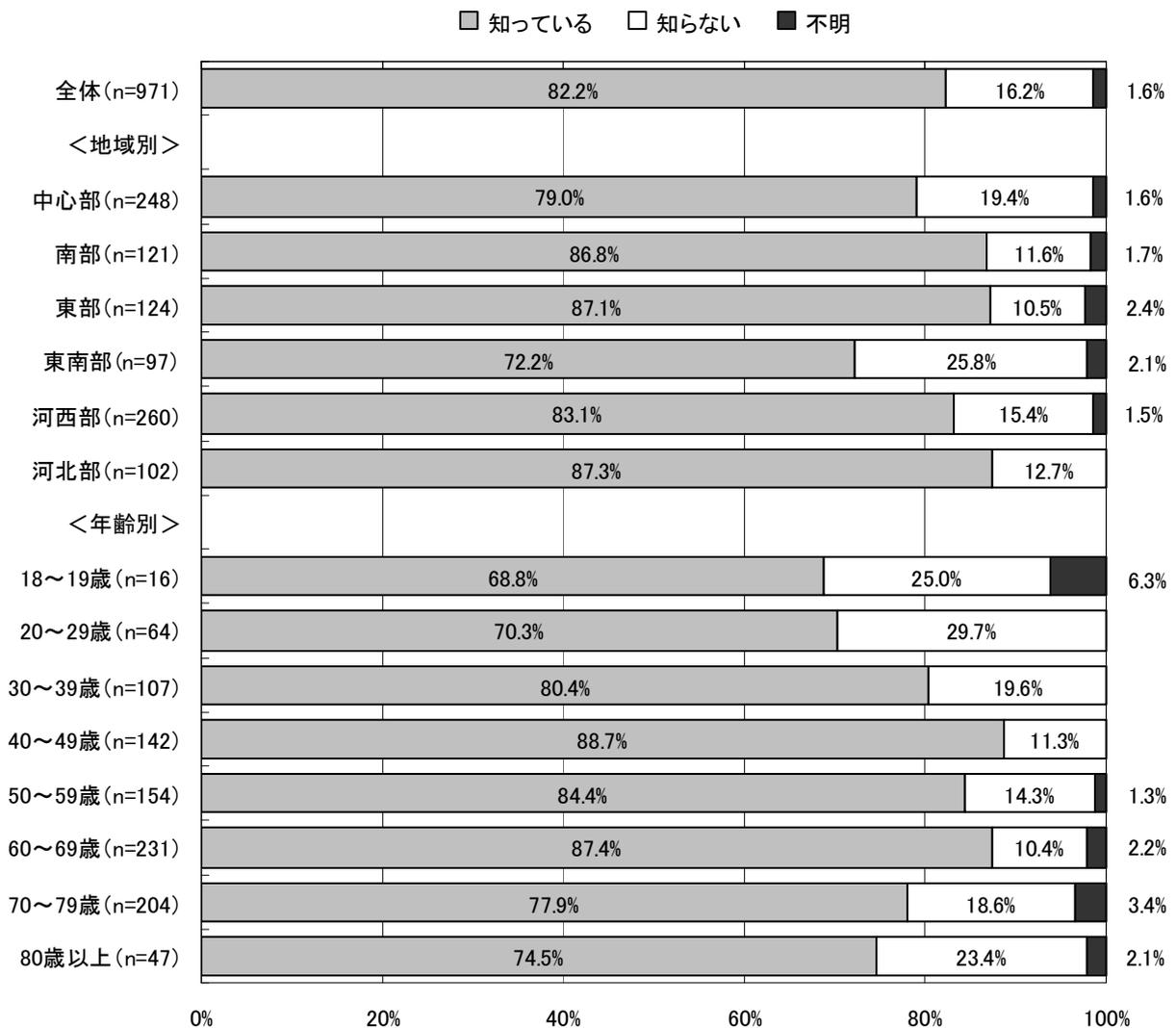
1. 知っている

2. 知らない

「知っている」は82.2%、「知らない」は16.2%となっている。

地域別にみると、認知率は中心部（79.0%）と東南部（72.2%）以外の地域で80%を超え、河
北部が87.3%と最も高くなっている。

年齢別にみると、認知率は30歳代から60歳代で80%を超え、40歳代が88.7%と最も高
くなっている。



問 24 避難所開設のタイミング

あなたは、避難所が*開設されるタイミングを知っていますか？

1. 知っている

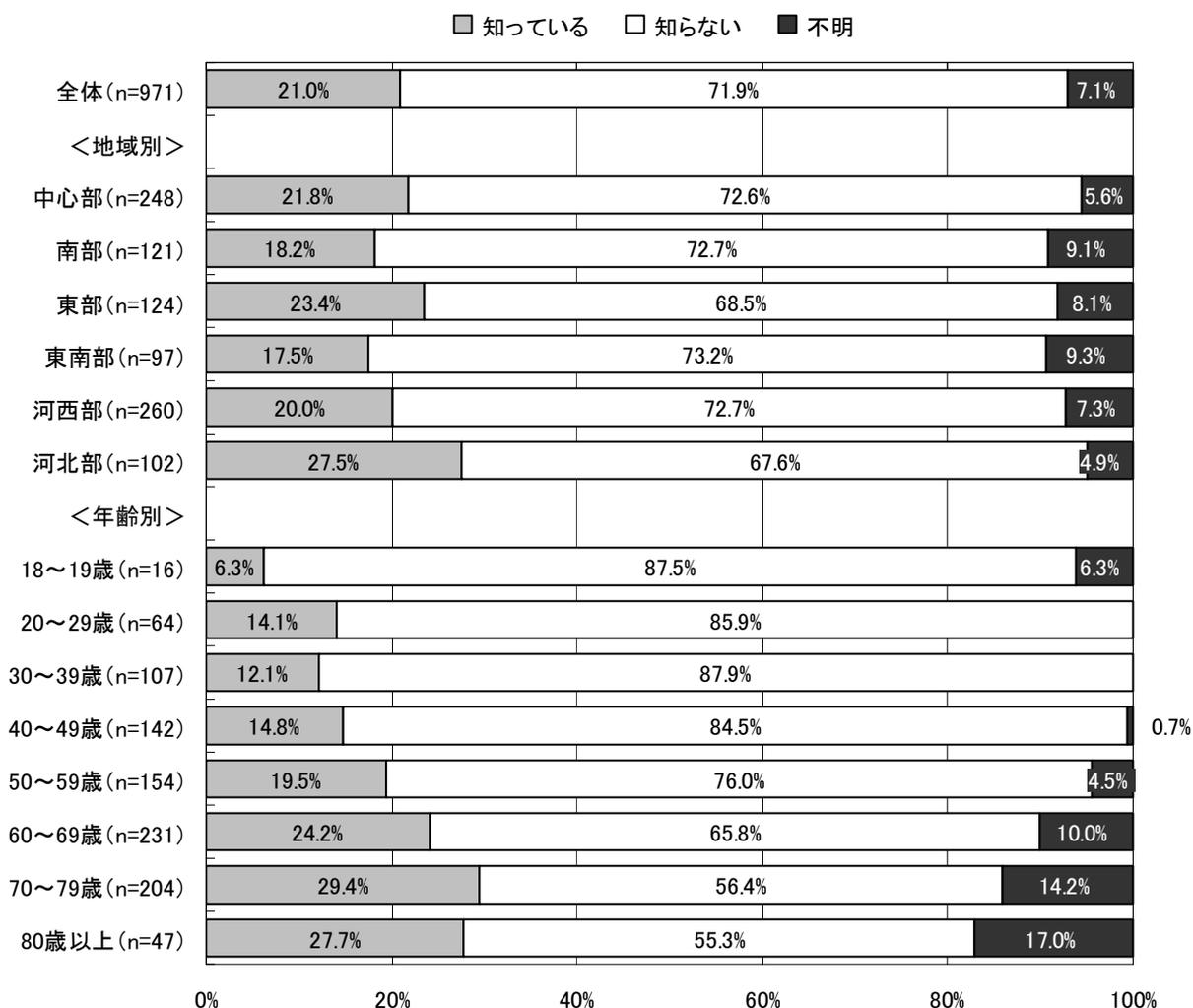
2. 知らない

※ 開設のタイミングは、災害が発生し、又は二次災害が発生するおそれがあり、避難者の収容を必要と認めるときや、自主的な避難があったときなどです。

「知っている」は21.0%、「知らない」は71.9%となっている。

地域別にみると、認知率は河北部が27.5%と最も高くなっている。

年齢別にみると、認知率は60歳代以上で20%を超え、70歳代が29.4%と最も高くなっている。

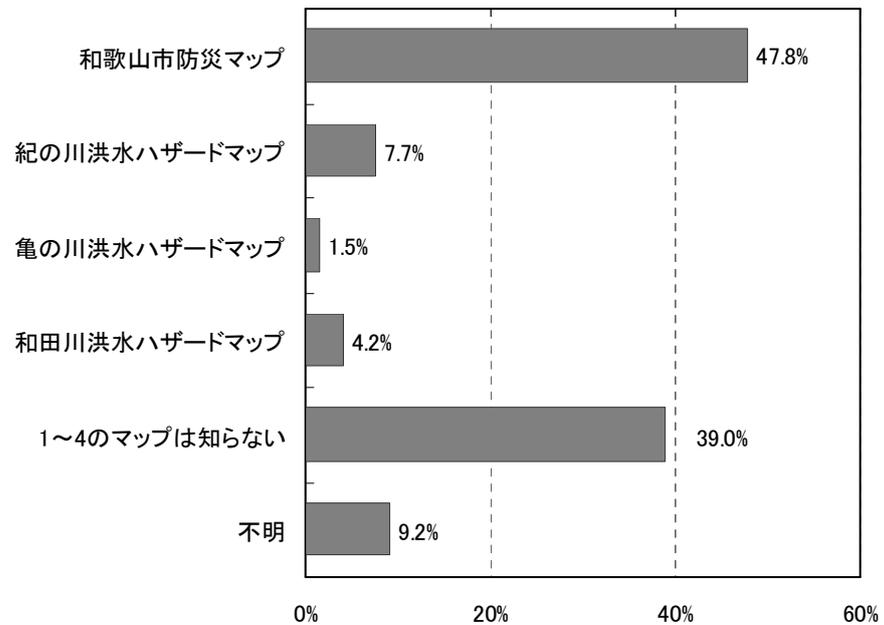


問 25 ハザードマップの認知度

あなたは、和歌山市が作成しているハザードマップを知っていますか？
該当するものをすべてお選びください。

1. 和歌山市防災マップ
2. 紀の川洪水ハザードマップ
3. 亀の川洪水ハザードマップ
4. 和田川洪水ハザードマップ
5. 1～4のマップは知らない

「和歌山市防災マップ」が47.8%と他のハザードマップより認知率が高くなっている。
「1～4のマップは知らない」は39.0%となっている。



問 26 津波への対処

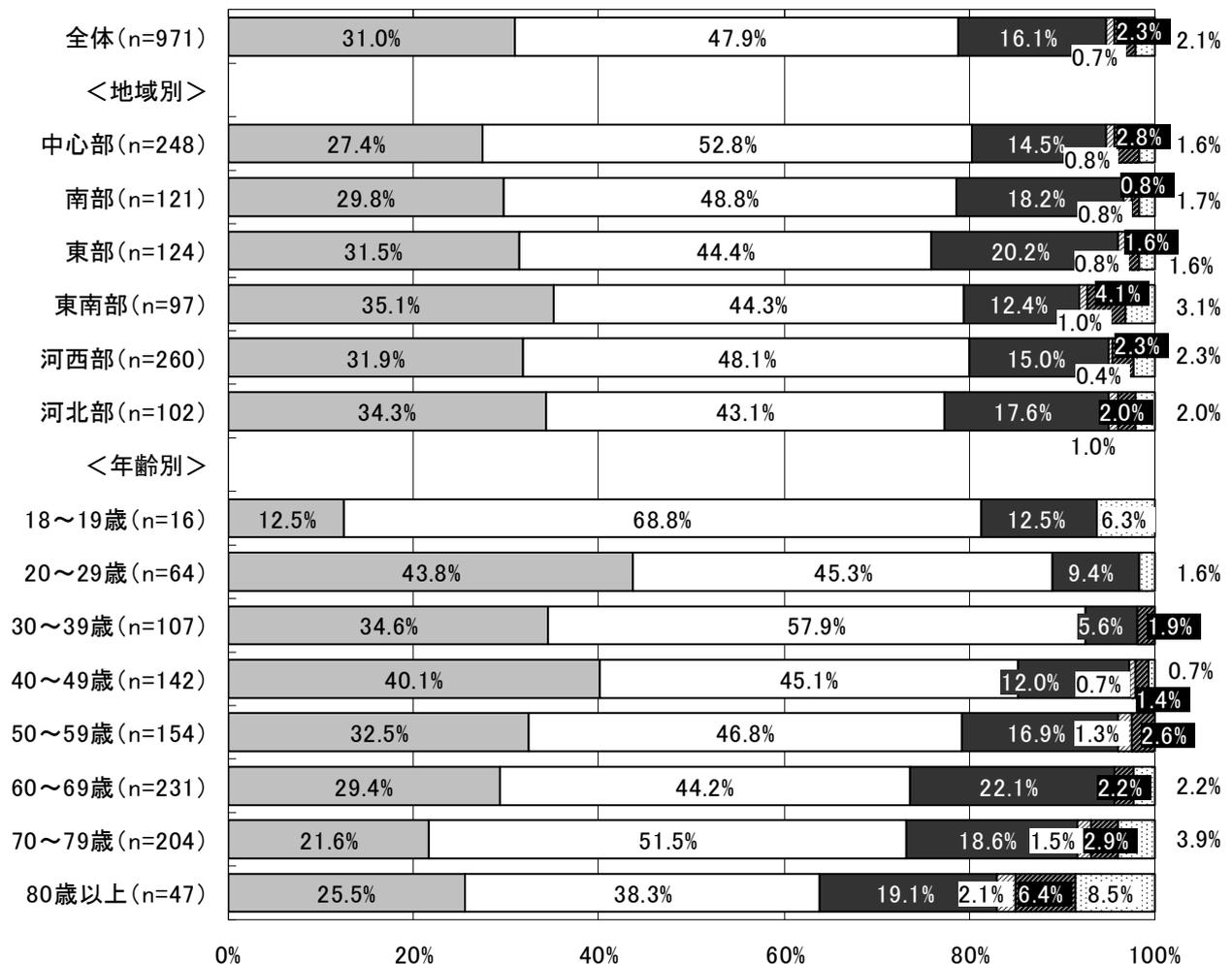
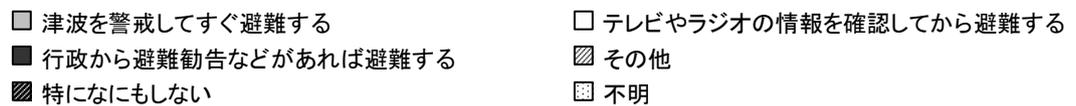
あなたは、地震の大きな揺れを感じたら、津波に備えてどう行動しますか？
沿岸地域にいる場合を想定して、つぎの中から1つお選びください。

1. 津波を警戒してすぐ避難する
2. テレビやラジオの情報を確認してから避難する
3. 行政から避難勧告などがあれば避難する
4. その他 ()
5. 特になにもしない

「テレビやラジオの情報を確認してから避難する」の割合が47.9%と最も高く、次いで「津波を警戒してすぐ避難する」(31.0%)となっている。

地域別にみると、「テレビやラジオの情報を確認してから避難する」の割合は中心部(52.8%)が最も高く、「津波を警戒してすぐ避難する」の割合は東南部(35.1%)が最も高くなっている。

年齢別にみると、「テレビやラジオの情報を確認してから避難する」の割合は18～19歳(68.8%)が最も高く、「津波を警戒してすぐ避難する」の割合は20歳代(43.8%)が最も高くなっている。30歳未満では「特になにもしない」はなかった。



問 27 自主防災組織への参加意向

和歌山市では、災害から「わが家わが町を守るため」地域の人々が結成した自主防災組織の育成を推進しています。

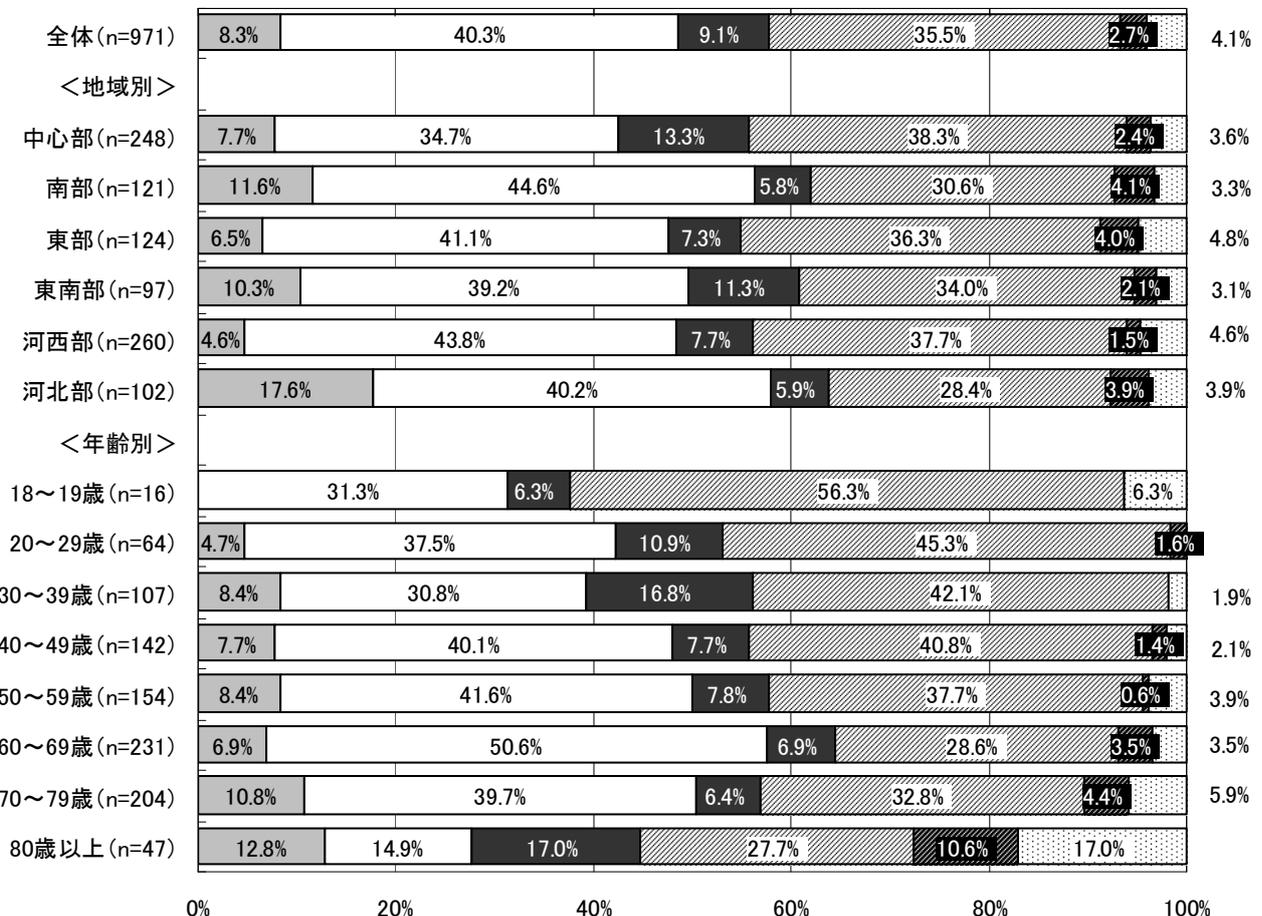
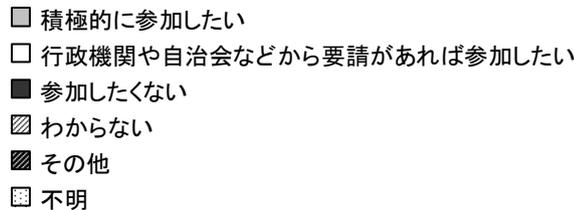
あなたは災害発生に備え、地域の自主防災組織に参加したいと思いますか？

- 1. 積極的に参加したい
- 2. 行政機関や自治会などから要請があれば参加したい
- 3. 参加したくない
- 4. わからない
- 5. その他 ()

「積極的に参加したい」(8.3%)と「行政機関や自治会などから要請があれば参加したい」(40.3%)を合わせた48.6%が「参加したい」意向があり、「参加したくない」意向は9.1%となっている。

地域別にみると、「参加したい」意向の割合は南部(56.2%)と河北部(57.8%)が50%を超え、中心部が42.4%と最も低くなっている。

年齢別にみると、「参加したい」意向の割合は、60歳代が57.5%と最も高く、「参加したくない」意向の割合は、30歳代(16.8%)と80歳以上(17.0%)が他の年齢層より高くなっている。



その他：「高齢のため参加できない」、「仕事の都合で参加できない」など

問 28 防災行政無線からの情報伝達

災害発生時や災害が発生するおそれのある時、防災行政無線などによって市から情報を発信していますが、その情報はあなたに伝わっていますか？

1. 伝わっている

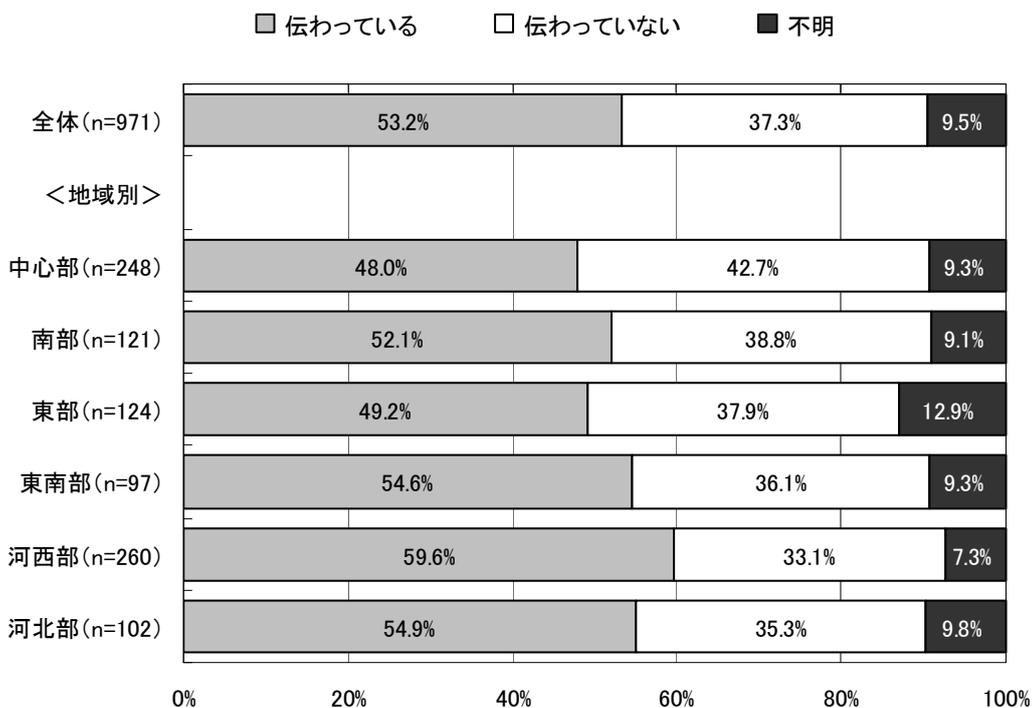
2. 伝わっていない ※伝わっていない理由をご記入ください。

【理由： 】

「伝わっている」は53.2%、「伝わっていない」は37.3%となっている。

地域別にみると、「伝わっている」の割合は中心部（48.0%）と東部（49.2%）以外の地域は50%を超え、河西部が59.6%と最も高くなっている。

伝わっていない理由として、「聞きとりにくい」や「聞いたことがない」、「あることを知らなかった」などが多くあった。

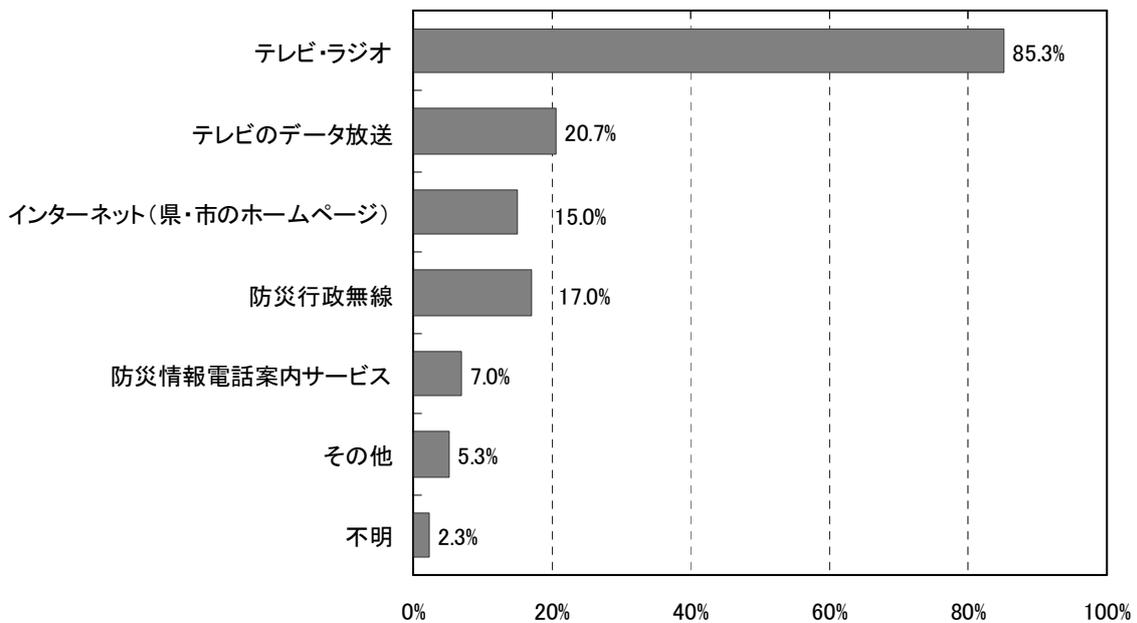


問 29 災害時の情報源

あなたは、災害発生時や災害が発生するおそれのある時、その情報はどこから得ていますか？該当するものをすべてお選びください。

1. テレビ・ラジオ
2. テレビのデータ放送
3. インターネット(県・市のホームページ)
4. 防災行政無線
5. 防災情報電話案内サービス
6. その他 ()

「テレビ・ラジオ」が85.3%と最も高く、次いで「テレビのデータ放送」(20.7%)、「防災行政無線」(17.0%)、「インターネット(県・市のホームページ)」(15.0%)の順となっている。



その他：「携帯・スマートフォン」、「インターネットの防災サイト」、「自治会からの情報」など